



織物参考館 “ 紫 ”

所 在 地 桐生市東 4-2-24

所 有 者 森島純男氏・森秀織物株式会社

国登録有形文化財

織物参考館“紫”は桐生市の織物の歴史を概観できる唯一の施設である。それも建物は数々の織物を生産した現場であるノコギリ屋根工場をそっくり活用しているだけに、より深く織物の生産工程とその歩みが理解できる資料館となっている。

昭和56年5月の開館、森島純男社長が長い期間かけて収集した織物に関する各種資料や器具、機材などを展示している。八丁撚糸機をはじめ桐生式手織機、明治時代のジャガード機、管巻き機、足踏み式手紡機など資料の数は1,200点に及ぶ。

ノコギリ屋根工場を中心に整経場、釜湯（染色場）、撚糸場、寄宿舍など織物業の一連の施設が現存する。ノコギリ屋根工場は三連のものと四連のものが同一敷地内にあり、桐生市内でも特筆される規模である。創建時の大正13年頃の姿がほぼそのままの状態に残されている好例であり、まさに生きた“博物館”である。

ノコギリ屋根工場の新たな活用を26年前も前に先駆的に提案し、継続している功績は大きい。広大な敷地に展開する工場群も見事だが、参考館を取り巻く路地裏も趣深く、桐生の織物産業が造りあげた風景が一体となって今も息づいている。

